

医療の視点に基づくメディア教材の分析について

吉留文男*

On the Analysis of Media Materials from a Medical Point of View

Fumio YOSIDOME

Abstract

Our goals are to identify a path to the development of effective teaching materials for those who are engaged at medical institutions through the analysis of conversations between doctors, nurses, and patients in hospital settings. Firstly, an analysis of the needs of the subjects is conducted in the form of questionnaires including three items; English ability, communicative skills, and medical language skill. Further, three other concepts are addressed; assertive communications, therapeutic communication and information gathering techniques. These are then adopted to analyze conversations extracted from the 'doctor acclaimed' TV drama "Emergency Room" (ER). We too have concluded that in medical environments ER carries some potential as valuable training material for students involved in medical institutions.

Key words: Needs analysis, Language function, Therapeutic communication

1.はじめに

近年、英語教育における実践的英語力を求める要請が高くなっている。看護分野における英語に対する広範囲な調査によると、「看護英会話授業」や「専門用語の英語授業」の必要性が高い割合を示している（円城寺康子 2003）。このようなディスコース・コミュニティで特定の目的に応じた英語教育の在り方の議論も今後さらに高まると予想される。本研究では学習者のニーズ、言語機能、治療法的コミュニケーションの3つの観点から疑似オーセンティックな自然な会話を題材にした言語材料を分析し、その教材としての意味を考える。

2.研究の目的

本研究の目的は医療環境の下で医療従事者と患者の会話分析を試み、医療従事者のニーズに対応できる English for Specific Purposes (ESP) の教材開発の糸口を探る研究である。今回実施した看護学生へのアンケート結果（資料1）によると医療従事者の必要としている英語力は医療現場での「会話力」を身につけることである。ところが医療従事者と患者間の会話データを実際の医療現場から収集することは困難なのが現状である。そこで、自然な会話に近く口語を学ぶに分かりやすいテレビ映画を活用し、医療環境という特定の状況で行われる医療従事者と患者間の会話の特徴を調査する。さらに、assertive communications (Davis 1998), therapeutic communications (Bradley 1990), information gathering techniques (Bradley 1998) の視点から、言語機能と形式の融合だけでなく、特定の社会的状況での適切なコミュニケーションを展開できる教材開発の必要性に言及し、メディア教材の有効性の有無を考察する。

3.研究手順

3.1.アンケート調査

3.1.1.アンケート対象（資料1）

2004年5月に以下の対象者にアンケートを実施し、集計、分析、考察をおこなった。アンケートに関しては渡邊（1998）、Bourhis（1989）を参考に構成した。

対象者：Y県O高等看護学生の1年生39名（男子学生4名、女子学生35名）

アンケート構成：① 医療従事者に関する英語力についての項目
② 医療現場でのコミュニケーション技能項目
③ 専門用語の使用度